

令和6年度

事業実績報告書

社会福祉法人 睦愛会

特別養護老人ホーム睦愛園

令和 6 年度特別養護老人ホーム睦愛園 事業報告概要

令和 6 年度は、新しい施設での 1 年目であり、職員ともども、継続することと新しく取り組むことの判断と行動に戸惑うこともありました。なんとか 1 年間取り組んでまいりました。1 年を通して感染症の蔓延がなく、面会の機会を制限することもなかったため、入所されたばかりのご入所者やご家族は安心でき、落ち着かれて生活できたように思えます。職員も、ユニット型の施設での考え方や働き方に少しずつ慣れてきました。

しかしながら、運営面では満足な経営が出来ませんでした。

大きな原因として、計画的な人材の確保が出来ずに、満床にすることが出来ませんでした。通常の求人活動の他、紹介や成功報酬求人や外国人雇用等行ってみましたが、努力が足りずに人員の確保が出来ませんでした。常勤の介護職員 4 名の退職も反省しています。職員の定着の課題も残りました。そのためユニットの開設が遅れ、新規利用者の入所が出来ませんでした。このことで稼働率を大きく引き下げてしまい、人件費率も 60%を超える結果となってしまいました。

また、入所・退所の状況としまして、37 名の退所と 71 名の入所がありました。

相談支援課でも職員の退職による人手不足から、日頃の営業活動や面談等に時間が取れない時期もあり入所調整に時間がかかってしまいました。

さらに給食費の持ち出しなど無駄な支出がかさみ、計画していた収入を大きく下げてしまいました。多岐にわたり管理者として意識と努力が足りずに 1 年目の経営に支障を出しました。

6 月に残っているユニットを開き、満床になります。1 年目の反省が言葉だけでなく行動として示せるよう努めてまいります。

令和 7 年度は、令和 8 年度からの償還金返済を見据えて少しでも蓄えておける様、人件費を管理し、節電・節水をはじめ前年度のような無駄な支出をなくし、安定した稼働率確保と加算の取得を目指します。

特別養護老人ホーム睦愛園
施設長 高橋 裕二

令和 6年度実施事業

目 次	頁
1. 振り返り	
(1)介護統括	1
(2)介護	2・3・4
(3)事務・支援相談課・栄養・看護	5
2. 管理部門事業報告	
(1)職員状況	6
(2)実施業務	7
(3)職員の研修(施設外)	8
(4)会議実施状況	9
3. 各事業別報告	
特養・短期入所利用状況	
(1)月別稼働率	10
(2)利用者介護度別状況	11
(3)利用者費用負担別状況	12
(4)事故行政報告状況	13
(5)特養利用者入退所状況	14
(6)利用者年齢別性別状況	15
(7)面会・外出状況	15
(8)介護部門	
(イ)移動・入浴状況	16
(ロ)食事介護状況	16
(ハ)排泄介護状況	17
(9)看護部門 要医療者状況	18
(10)栄養部門	
(イ)食形態状況	19
(ロ)提案・検討事項	19
(ハ)新しい取り組み	19
(二)非常食在庫状況	19
(ホ)行事食一覧表	20

令和6年度 介護統括目標振り返り

1、職員が職場環境に慣れる

- ①信頼関係が築けているかは不明だが、業務の遂行に支障のない関係は築けたと感じています
- ②ユニット型に変わった事により、従来型とは違ったケアが自然と行えているように見える。今後は睦愛園としてのユニットケアの在り方を共有し、方針に沿ったケア
- ③職員個人の価値観や介護観が先行している場面を見かける事がある。方針を共有し、プランに沿ったケアが行えるよう継続的に指導します
- ④十分とは言えません。共有すべき情報を明確にし、方法を確立する事で実現できると考えます

2、施設運営を意識した指導を行う

- ①徐々にではあるが、職員の意識が変わってきていると感じます。使用料を具体的な数字で可視化する事で、実現できると考えます
- ②まだまだ不十分です。使用目的や使用量をさらに意識する必要があります。今後も継続的に委員会等で発信し、実現に近づけます
- ③1年掛けて徐々にユニットが開いたことで、決まった流れで業務を行うことが困難であったと感じる。業務負担の軽減は10ユニット開いた状態で改めて見直す必要が

3、感染症予防・拡大防止に努める

- ①委員会を中心に進めているが、整備には至っていない。早期の運用を目指し継続的に取り組んでいく
- ②委員を中心に意識的に行えているように感じるが、まだまだ不十分であるため、継続的に取り組んでいく
- ③定着してきてはいるが、急な欠勤の際の勤務変更が行えず、長時間の残業が発生している状況は課題と言える

ユニット	リーダー	令和5年度振り返り	振り返り1	振り返り2	振り返り3
			具体的な手立て	具体的な手立て	具体的な手立て
西A-1	秋山 鉄也	●個別ケアの適応 個別ケアを理解し、その人らしい生活を送って頂くケアに 切り替える一年でした。 ●共通ケア(チームケア) 定型的な対応ではなく、場面に 応じたケアは、その都度職員と話し合い、共通したケアを行いました。 ●従来型では無い生活リズム 利用者の生活リズムを尊重し、意思を汲み取って生活をして頂きました。	個別ケアの適応 その人らしい生活を送って頂く様に 病歴や趣味、思考、嗜好、生活歴、 希望、生き方等を傾聴し、それに対応できる様に生活改善を行う。 ・居室の模様替えや ・お好みのコーヒーやお好みのおやつを提供 ・食形態の見直し等	共通ケア(チームケア) ・体調の変化に応じて ケアマネ、医務、介護と連携して 共通したケアを行う。 ・家族の要望 ご家族の意向を聞いて また、それを周知して チームケアで行っていく等。	従来型では無い生活リズム ・起床時間等は、ご本人の 体調に合わせて起床して頂く ・排泄等は、ご本人にお伺いして 誘導や見守り、介助する。 (定時的な介助をしない) ・臥床希望されたら 臥床介助を行う。
		従来型からユニット型へ移行し、個別ケアとは何かを考えながら介護をしていた一年だと思う。やりながら色々気づくことが多くあり、いままでの従来型のケアの多くが間違っていたと学び直すきっかけとなった。ただ、まだ個別ケアについての概念が私を含めユニット全体には定着していないので、そこが今後の課題である。	従来型からユニット型への移行 個別ケアについてを考えながら ケアをしていたが、はじめは業務をどのように回すかに時間をとられていた。必要な書類を作るためパソコンに向かう時間も多かったので利用者様と向き合える時間がもてなかった。移転して半年が過ぎたあたりで業務の進め方も定着し利用者様と向き合えることが増えてきたと思われる。今後はさらに利用者様と向き合えたらと思っている。	個別ケアについて 移転から半年が過ぎたあたりで、利用者様がここでどんな暮らしをしたいのか、そして、それをどうしたら実現できるかを考えるようになった。介護の正解を見出すことは難しいかもしれないが自分だったどうかを一つの尺度として考えるようにしていきたい。自分がされて嫌なことはしたくない。	情報共有 ユニットケアを進めるにあたり、色々と考えさせられることが多々あり、迷いも多かった。その迷いをユニット職員と共有したくとも自分が言語化できずなかなかユニットメンバーに伝えられないことがある。今後の課題は自分のなかでどうしたいのかを言語化しユニットメンバーどう伝えるかを考えなくてはならない。

ユニット	リーダー	令和6年度振り返り	振り返り1	振り返り2	振り返り3
			具体的な手立て	具体的な手立て	具体的な手立て
西A-2	上野 智之	従来型からユニット型へ移転し、ABユニットでフォローし合いながら業務の模索をしてきた。6月自身の担当するフロアをみることとなる。7月より会議の時間をもうけることはできないが毎月アンケートという形で議題の検討を行う。検討の中でスタッフから夜勤業務やフロアヘルプにあたった際、利用者の状況や業務が分からないと意見有。1月からAB分けずに定期的に互いのフロアに入り20名をABスタッフでみることとなる。来年度はユニットの問題を吸い上げつつ、問題提起したスタッフが具体的にどうしていきたいのか提案できることを課題としていきたい。	優先順位	個別ケア	情報共有
			利用者の状態変化を機にどのようなケアがご本人に合っているか、ご家族交えて方向性を決定し、連絡ノートを活用し周知を行っている。周知から浸透までに時間を要する。業務を優先する考え方から実施されていない連絡ノートや本人に直接伝えることでご利用者の対応を優先し業務にあたるよう周知をかけている現状である。	申し送り版を使用し情報共有を行い、変調があった際はそれが一時的な物なのか、慢性的な物なのか期間設定を行い観察を行い申し送りをつないでいく。利用者の状態が落ちたら、対応もより介助寄りの対応(トイレ・オムツ、見守り・介助)に変更するのではなく、そんな中で失われていないADLはあるのか観察し、ご本人や家族に情報提供しどうしていきたいのか選択してもらう。それが実現できるよう担当職員、リーダーを主体に対応の検討を行いご本人と家族に提案を行う。	対応を変更し連絡ノートで周知を行うが、浸透までに時間がかかる。もしくは何らかの理由で行っていない。しばらくその対応をおこなっているのだが時間経過とともに、皆ばらばらのケア方法を行っている。申し送り版をもうけ共有が必要な物を視覚化できるようにするとともに情報収集をしやすくする。会議の時間をもうけること困難であるが、アンケートという形で問題提起、検討を行う。24シートを作成し現在行っているケアを視覚化できるようにし担当フロアでなくとも問題なく働けるよう整備する。
西B-2	中村 多加志	従来型からユニット型へ変わったり、職員の異動や離職、さらには2025年1月からリーダーに就かせていただいたり、、、と目まぐるしくあつという間の1年間ではありましたが、業務の殆どを(個別ケアプランや業務マニュアルの作成など)A側リーダーにフォローしてもらっていました。また日々の業務に関しても、特に利用者の状態観察は周りの職員の気づきに大変助けられました。今後も常に変化状況の中で事故なく、軋轢なく各々が業務に携わっていける環境づくりにリーダーとして貢献したいです。	従来型からユニット型への移行	変調の発見	情報共有
			研修などを活用し、手技、ケアに対する意識の統一、向上を図る。また個別ケアプランの作成、洗濯や清掃などの業務マニュアルを作成することでA、Bユニットどちらへ誰が行っても、新入職員でも同様のケア、業務ができるような環境を整える。	生活環境に複数の目があった従来型と違い変調に気づき難いため、予め、利用者ごとに注視する箇所をある程度定めておくことで早期発見につながると考えられる。”利用者ごとに注視する箇所”はユニット内職員のほか他部署の意見も聞き取り、定める。	タブレットの申し送り以外に、ノートや(簡易的ではあるが)西側A&Bユニット内での会議やアンケートを実施することで、ケアの統一、意見収集はそれなりにできていると思えた。2年目に入ることで各々が良い意味で慣れてくることによりそれらの精度向上が望める。
東A-2	木村 圭太	3/16にユニットがオープンし、まだ間もなく、食席を含めた対応方法をまだ模索している段階です。これから入居して来る方もいらっしゃるので、これから方向性を検討中です。特定の入居者様に2件事故が発生し、居室の設営を大幅に変更し、様子観察しています。所属職員にアンケート、またはユニット会議を行い、明確なユニットの方向性を考えて行きます。	整容	ケア方法の統一化	各チェック表の記入方法の統一化
			男性入居者様の髭剃りをこまめに行える日とそうでない日がありました。	日中、夜間共にほぼ正確な入居者一人一人の使用パット、朝方夜勤者にどこまで入居者様を離床するかなどがある程度の所まで決め切れていませんでした。	オープン当初は、新たに作成したチェック表諸々の記入方法が職員に浸透するのに多少の時間を要しました。現在は最初に比べると、統一化しつつあります。
東B-2					

ユニット	リーダー	令和6年度振り返り	振り返り1	振り返り2	振り返り3
			具体的な手立て	具体的な手立て	具体的な手立て
西A-3	小田原 真奈美	移転に伴い、職員もご利用者も慣れない環境でした。既存の職員においては勤務時間の変更などもあり時間のやりくりにも苦労したと思います。新入職の職員も何も決まっていなかったところからのスタートで戸惑いもあったと思います。ご利用者ご家族においては環境の変化に対応、ご納得していただき感謝しています。	環境の変化	業務より介護を	健康管理
			従来型からユニット型へ変更になりケアの方法や日々の業務も変わった。ユニットケアの経験がない職員もいたが、持ち前のセンスと工夫で乗り越えてこれたと思います。	当ユニットは早番の仕事、遅番の仕事を決めずにスタートしました。そうすることで、業務優先ではなくご利用者への介護を優先して行っていたと思います。もちろん業務が滞る場面もありましたが、そこはお互いにカバーしながらなんとかこなせたと思っています。	職員もご利用者も特に目立った感染症を患うことなく、過ごせたことはとても良かったと思います。
西B-3	辻原 秀宣	従来型からユニットケアに移行し、利用者本位を一番に考えてとの目標でやってきたが、職員間の報連相や職員のストレス(ワンオペに対応しきれない、人間関係)にうまく対応できず。なかなか進めない部分も多かった。新施設で一年たち少しづつだが、ユニット運営の向上に向かって話し合う機会も増えてきたので、今後も新たな課題などに向き合い精進していきたい。	従来型からユニット型へ	ワンオペでの業務	生活環境を整える
			個々の利用者のペースで目標に行ってきたが、対応できる場面とできない場面があった。どうしても早く業務を済ませると思ってしまう意識を少しずつ緩和していきたい。	利用者の生活スタイルやADLの変化によって、必ずこの時間に決まった業務を固定するのが困難だった、シーツ交換を週末に集中して行っていたが、平日に一日2床とすることにより、職員の負担が軽減し、居室の掃除なども安定して行うことができた。フロアの掃除については不定期になっているので、なるべく定期的にできればと考える。	ユニットは利用者の居住スペースと理解はしているが、施設感が拭えず、ユニットの飾りつけも満足にできず、年齢層に不適切な飾りつけをすることも多々あった、今後は他施設などの情報などを参考に、利用者のよりよい生活空間として構築していきたい。
東A-3	瀬川 紀子	ユニット型特養としての再出発であったと思うが、施設としての方針や手段に関しては、従来型のものをそのまま継承しているものが多く、東3階の職員は外部施設からの転職者がほとんどであった、その方針に戸惑うことが多くあった。その中で、従来の意思を尊重しつつも新しいことを取り入れていきたいという気持ちの上、奮闘した1年であったと思う。	情報共有	入居者との関わり	教育体制
			全体での申し送りや日誌がないことから、報連相や報告書、申し送りノートの活用での情報共有が不足した点、その為、入居者の状態を把握していない職員もいる等、チームワークが不十分であると感じた。記録も不十分に行えておらず、今後業務の役割分担や、業務の中に記録の時間を設ける等、意識をもてる体制を作っていきたいと思っている	入居者に対する関心が薄いと感じている。ユニット内環境だけでなく、入居者が1日中椅子に座りっぱなしになることに対して、何を感じているのか、そこから生じるもの(健康状態等)までを含めて、職員主体の関わりになっていたことは否めない。医学的見解は必要ではなく、人間として、自分が入居者の立場であったらを考えて、行動できるようにしたい	新人への教育に対して、曖昧になっていた為「ついた職員によって言うことが違う」現象があった。今後、新人が安心して自信をもって仕事ができるように、対応の統一、OJT担当によるマンツーマン指導、マニュアルの作成をもって、対応していく
東B-3	安達 剛久	新設への移転で、洗濯や入浴介助の仕方など自身がこれまでやってきたことからの違いに慣れていくこと、9月から新ユニットのリーダーとなり新入居様に陸愛園になじんでいただくこと、新しい職員の考えかたやシフト希望の兼ね合いなど慣れていくための一年でした。	整容	従来型からユニット型	リハビリレク
			掃除と居室の整理、利用者様の顔拭きや爪切りなど他職員まかせで自身はあまりできていなかったと思う。	利用者様個人の生活ペースに合わせての介護がユニットケアの目標になると思うが入浴時間や離床時間などこちらのペースに合わせていただいていたことも多くあったと思う	塗り絵や書道など時々レクを行ったが少なかつたと思う。日々のレクを増やしてそれがリハビリにつながれば良いと思う

部署名	記入者	令和6年度振り返り
事務	小林 由美	財務・経理部門は移転初年度であり、日々変化する状況(入退所や入退院、職員の入退職等)を常に意識しながら収支状況を予測、検討していくことが最重要課題でした。 これまでは収支状況について職員へ積極的に周知しておりませんでしたでしたが、稼働率と収入の関係性や支出状況、収入に占める人件費の割合(人件費率)など、職員にとって意識しやすい項目について、毎月の代表者会議にて周知してまいりました。また、施設規模がほぼ倍になったことから、予測が難しい水道光熱費支出について、使用していない箇所の消灯や空調温度のコントロールを日々行ってまいりました。 経理部門では昨年に引き続き、適正な経理処理を実施いたしました。 人事労務部門は事務員が定着しない中で、いかにミスなく確実に業務をこなしていくことができるかを常に考え、業務に取り組みました。また、各種関係機関への届出においても期限内に実施できるよう計画的に取り組みました。 庶務部門では、旧施設から保管している書類についてデータ化を進めました。
支援相談	桐ヶ谷 圭子	移転後は3名体制でスタートしましたが、生活相談員と介護支援専門員がそれぞれ6月、7月に退職し、新任1名で請求業務に加えて入所受付から面談、判定会議、ケアプラン作成などに追われた1年でした。10月と12月にそれぞれ1名の介護支援専門員が入職しましたが、1名は退職しており業務分担を進める事ができませんでした。 新規申し込みはあるものの従来型より費用負担が増える事の周知が不足していたのか、申し込み後の説明で知り、取り下げの方も多くいて周知の大切さを知りました。また面談に行く前に逝去されたり、入所後すぐ入院になるなど入れ替わりも多く、安定した稼働率に繋げる事ができませんでした。同時に直接処遇部署へ十分な情報提供や支援、ご利用者やご家族に対する十分なモニタリング等が行えず、ご家族からもそうした面の指摘を受けたこともあり反省すべき点でした。 来年度については、開設するユニットの入所がスムーズに進むよう入所前面談を優先し実質待機者を確保していきます。また当施設の情報をご理解いただいた上で申し込みを検討いただけるようパンフレットや料金表を改正し関係機関へお持ちしたり、市民に向けてはホームページの随時更新等、最新の情報提供が充実していけると良いと感じています。職員体制は介護支援専門員1名の配置を得て3名体制に戻し、ご利用者とご家族、他部署との信頼関係の構築、入所直後から退所まで、こまめなアセスメントとケアプランの見直し及びご本人、ご家族を含めた担当者会議の開催など適切なケアマネジメントの充実を図り、睦愛園に入所して良かったと感じていただけるよう支援強化に努めたいと考えます。社会福祉法人の社会的役割の面から地域のボランティアの受け入れや近隣事業所との共同企画、外出や外食等、施設外活動を増やし睦愛園に来て楽しい、と感じていただけるような活動を提供していきたいと考えています。
医務	野本 紗世	2024年度は施設の移転に伴い嘱託医が変更となり、往診の方法等ご利用者の健康管理方法が大幅に変わりましたが、その都度話し合いを重ねながら進め、こまめに体調管理をし体調が変化した際は嘱託医を中心に他職種と連携を図りながら迅速に対応し、大きな混乱なくご利用者の健康管理をすることができました。今後も定期健康診断や予防接種の実施、内科往診と精神科往診、眼科往診、歯科往診、体調が変化した際には臨時往診や受診を行いながら疾病予防と早期発見、早期治療に努めていきます。 インフルエンザやコロナウイルス等の感染症は、12月から1月にかけてインフルエンザウイルスにご利用者と職員がそれぞれ数名罹患しましたが、発熱等の感染症が疑われる症状があった際には嘱託医の指示のもと迅速に抗原検査を実施し、感染が明らかになった際は嘱託医の指示のもと内服療法等を実施し体調が悪化しないよう努め重篤になることなく軽快され、感染者が明らかになった際は的確に感染対策を実施したことで感染症の蔓延を防ぐことができました。 また2024年度の夏期から紙媒体から電子カルテに徐々に移行しICTを導入したことで業務効率が向上し、またご利用者の健康状態やケア内容が把握しやすくなり介護職との情報共有も円滑となりました。まだ細かな操作方法や活用方法に課題があるので、解決しながら業務改善しご利用者の健康管理や疾病予防に努めます。
栄養	山崎 美波	委託会社と試食会を実施し、ミキサー食の種類が3種類になり選択肢が増えて良かった。ミキサー食とさきみ食の見た目が良くなかった為、見た目良く盛り付けていただくようにし、見た目でも食事を楽しんでもらえるようになり良かった。 どら焼きレク、桜餅レク、施設で採れたさつま芋を使ったおやつ提供、ユニットでおやつレクなど行いご利用者が楽しめている様子が伺えた。改善した方が良い点は改善策を考えながら楽しまれる機会を増やしていけたらと思う。 食数について、発注数と実数に差が生じる事があった為、委託会社と相談の場を設け少ない単位での発注ができるようにしていただいた。使用しない分は次回使用分として冷凍保存し食材の無駄を無くすよう努めた。 検食を始め各部署からの意見を取り入れ食事に関しての情報を共有していけるようになった。 新規ご入所者の中には色々な要望を言われる方もいらっしやうが厨房とも協力しながら食事提供の方法を考えられた。入所者の食事摂取状況をよく観察し、多職種で相談し合いながら一人一人に適した食事提供ができるよう努めていきたい。

2. 令和6年度 管理部門事業報告

(1)睦愛園 職員状況

R7.3.31現在

(単位:人)

部 門 ・ 部 署 ・ 職 名			常 勤			非 常 勤			6年度 退職者	6年度 入職者
			男性	女性	計	男性	女性	計		
管理・事務 部門	施 設 長		1	0	1	0	0	0	0	0
	生活相談員		0	2	2	0	0	0	3	2
	介護支援専門員		0	2	2	0	0	0	2	2
	事務	事務員	0	2	2	0	1	1	0	1
施設介護 部門	介 護	介護統括	1	0	32	0	0	24	0	0
		ユニットリーダー	7	2		0	0		0	1
		介護職員	10	12		5	19		13	48
	医 務	看護主任	0	0	2	0	0	2	0	0
		看 護 師	0	2		0	2		0	0
	厨 房	管理栄養士	0	1	1	0	0	0	1	1
	用務・清掃職員		0	0	0	3	3	6	0	3
	管理当直職員		0	0	0	4	0	4	1	1
	合 計		19	23	42	12	25	37	20	57
			79							

(2)実施業務

月	法人関係	防災訓練・点検	保守管理点検(業務委託)	健康管理
R6.4		防災資材点検 自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
5	理事会	自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
6	評議員会	昼間想定防災訓練 自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
7		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	全職員健康診断
8		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
9		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
10		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
11		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	入所者・職員 インフルエンザ予防接種
12		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検 防災設備点検(ヒラボウ)	
R7.1		夜間想定防災訓練 自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	
2		自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検	職員健康診断(夜勤)
3	理事会・評議員会	自主点検	ELV点検(三菱ビルテクノ) 電気巡視点検 受水槽・貯湯槽点検・清掃(加藤設備)	
その他	年間通した実施 点検項目	車椅子清掃・点検		
		エアコン清掃		
		水廻りクロムメッキ磨き		
		建物内・外自主点検		

(3)職員の研修

年月日	研修内容	参加職種	実施主体
R6.11.13	事務員研修	事務	県福利協会
R7.1.14～16	ユニットリーダー実地研修	介護	全国個室ユニット型施設推進協議会
R7.1.23	社会保険制度研修	事務	労働基準監督署
R7.2.13	救命救急講習	介護	藤沢市
R7.2.17	認知症研修	介護	藤沢市
R7.2.18	介護支援専門員研修	介護支援専門員	県高齢協
R7.2.14	スイング給与研修	事務	CIJ
R7.2.25	生活相談員研修	生活相談員	県高齢協
R7.2.25	障害者雇用納付金制度説明会	事務	高齢・障害・求職者雇用支援機構
R7.3.12	救急救命講習	介護	藤沢市

内部研修

R6.5.7・21・28	おむつの吸収率とパットの当て方について	介護職員	リブドゥコーポレーション
R6.9.1～10.31	危険予知トレーニング	介護・看護職員	事故防止委員会
R7.1.3～20	感染症の基礎知識(汚物処理の方)	全職員	感染予防委員会
R7.1.3～20	褥瘡防止(ポジショニングの理解)	介護・看護職員	褥瘡予防委員会
R7.1.7	虐待について認識の把握、再任	全職員	虐待防止委員会
R7.2.12	尊厳の保持について	全職員	身体拘束適正化委員会
R7.2.1～23	リスクマネジメントについて	介護・看護職員	事故防止委員会
R7.2.10	衛生管理と感染対策	全職員	湘南第一病院
R7.2.24	高齢者虐待とは	全職員	虐待防止委員会
R7.3.13	自立支援について	全職員	身体拘束適正化委員会

(4) 会議実施状況

名称	開催状況	議題	出席職種
代表者会議	月1回	全部門の代表者による運営面を主とした課題、問題整理の検討・伝達・報告・連絡調整	施設長、支援相談課主任、事務、看護師、介護統括、フロアリーダー、管理栄養士
ユニットリーダー会議	月1回	運営面の伝達とユニットの運営についての検討	施設長、介護統括、全ユニットリーダー
ケースカンファレンス	随時	個別処遇計画の立案及び検討	施設長、ケアマネ、相談員、看護師、管理栄養士、介護統括、担当介護職員、利用者御家族
入退所判定会議	月1回／随時	入所待機者及び退所者についての判定	施設長、ケアマネ、相談員、介護統括、管理栄養士、看護師
医務会議	随時	看護業務に関する検討	看護師
各委員会会議	月1回	感染褥瘡・事故防止・身体拘束・s排泄委員会等において各議題の検討	管理栄養士、ケアマネ、相談員、看護師、介護統括、介護職員、事務員

2. 事業別報告

(1) 月別稼働率

①介護老人福祉施設（定員100名）

月	利用実人員	利用延数	空床延数			
			入院	外泊	退所後	
4	62	1661	62	0	4	55.3
5	73	1887	178	1	15	60.8
6	72	2058	80	0	33	68.6
7	72	2155	74	0	29	69.5
8	72	2151	30	0	21	69.3
9	80	2265	97	0	1	75.5
10	79	2434	128	0	0	78.5
11	80	2354	59	0	33	78.4
12	80	2452	112	0	28	79.0
1	81	2366	133	0	80	76.3
2	82	2207	101	0	45	78.8
3	87	2459	104	3	75	79.3
計	920	26449	1158	4	364	72.4

②(介護予防)短期入所生活介護(空床型)

月	利用実人員	利用延数	稼働率
4	0	0	0.00
5	0	0	0.00
6	0	0	0.00
7	0	0	0.00
8	0	0	0.00
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			
計			

月	送迎延数
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
1	0
2	0
3	0
計	0

(2) 利用者要介護度状況

①介護老人福祉施設 (月末実人員)

月	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均
4	1	4	19	25	13	3.8
5	1	4	25	28	15	3.7
6	1	4	25	29	13	3.7
7	1	4	25	29	13	3.7
8	1	4	23	30	14	3.7
9	1	4	26	32	17	3.7
10	1	4	24	34	16	3.8
11	1	3	25	36	15	3.8
12	1	3	26	35	15	3.7
1	2	3	26	35	15	3.7
2	2	3	29	31	17	3.7
3	2	3	32	36	14	3.7

②(介護予防)短期入所生活介護 (各月利用実人員)

月	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均	支援 1	支援 2
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 利用者費用負担別状況

①介護老人福祉施設（定員100名）

月	第1(生保)	第 2	第3①	第3②	第 4	計
4	0	4	4	14	40	62
5	0	6	3	17	47	73
6	2	6	3	16	45	72
7	2	6	4	17	43	72
8	1	4	5	16	46	72
9	1	4	5	18	52	80
10	1	5	5	18	50	79
11	1	5	4	19	51	80
12	1	5	4	19	51	80
1	1	5	4	21	50	81
2	1	4	4	19	54	82
3	1	4	5	22	55	87

②(介護予防)短期入所生活介護(4月～9月定員10名 10月～定員3名)

月	第1(生保)	第 2	第3①	第3②	第 4	計
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0

(4) 事故状況

月／種別	骨折・ヒビ	打撲等	切傷等	誤嚥	感染症	誤薬	その他	合計
4	0	0	2	0	0	0	0	2
5	0	2	7	0	0	2	1 硬膜下血腫	12
6	0	1	6	0	0	0	0	7
7	1	0	0	0	0	0	0	1
8	0	0	2	0	0	0	0	2
9	0	0	2	0	0	0	1 大胸筋筋肉血腫	3
10	0	0	0	1	0	0	0	1
11	0	2	3	0	0	3	0	1
12	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	2	0	0	0	0	2
2	0	0	2	0	0	0	0	2
3	0	3	1	0	0	0	0	4
合計	1	8	27	1	0	5	1	37

骨折事故状況

性別	年齢	骨折部位	経緯	経過
女	82	右頸基部骨折	9:45車椅子乗車しテーブルに向い座っていた。職員不在間に右側を下にして倒れ、看護師、介護士で外傷、疼痛確認し特異なし。車椅子へ戻る際に立位介助、疼痛訴えなし。10:20入浴。昼食後より右下肢痛あり看護師が右下肢伸展困難を確認。	翌日まで右下肢痛継続しており受診、手術が必要なため入院となった。

(5)特養利用者入退所状況

退所					入所				
	年齢	理由	関連機関	介護度		年齢	理由	関連機関	介護度
4月	87	死亡①	睦愛園看取り	4	4月	94	本入所1	自宅	3
4月	86	死亡②	睦愛園看取り	4	4月	81	本入所2	老健	3
4月	82	死亡③	睦愛園看取り	4	4月	88	本入所3	病院	4
5月	92	死亡④	睦愛園看取り	5	4月	88	本入所4	有料	3
5月	94	死亡⑤	病院	4	4月	89	本入所5	自宅	3
5月	83	死亡⑥	湘南第一病院	5	4月	84	本入所6	有料	3
5月	81	死亡⑦	湘南第一病院	5	4月	89	本入所7	病院	4
5月	84	死亡⑧	湘南第一病院	5	4月	78	本入所8	自宅	3
5月	86	転施設①	市内特養	4	4月	83	本入所9	サ高住	5
6月	87	死亡⑨	睦愛園看取り	4	4月	89	本入所10	サ高住	4
6月	94	入院継続①	病院	5	4月	91	本入所11	自宅	3
6月	78	死亡⑩	睦愛園	3	4月	87	本入所12	有料	4
7月	88	死亡⑪	病院	3	5月	85	本入所13	自宅	3
7月	79	入院継続②	病院	4	5月	96	本入所14	自宅	3
8月	79	死亡⑫	睦愛園	4	5月	84	本入所15	老健	4
8月	94	死亡⑬	睦愛園	5	5月	97	本入所16	自宅	3
9月	73	死亡⑭	睦愛園	5	5月	80	本入所17	老健	3
9月	87	死亡⑮	病院	3	5月	87	本入所18	有料	4
10月	94	死亡⑯	病院	2	5月	104	本入所19	自宅	3
10月	87	死亡⑰	睦愛園	5	5月	80	本入所20	有料	3
11月	86	死亡⑱	睦愛園	5	5月	92	本入所21	有料	3
11月	96	入院継続③	病院	4	5月	79	本入所22	有料	4
12月	90	死亡⑲	睦愛園	5	5月	91	本入所23	自宅	3
12月	82	死亡⑳	病院	2	5月	96	本入所24	病院	4
12月	91	死亡㉑	睦愛園	4	5月	93	本入所25	老健	4
12月	85	入院継続④	病院	5	5月	82	本入所26	自宅	5
1月	86	死亡㉒	睦愛園	5	6月	82	本入所27	サ高住	3
1月	89	死亡㉓	睦愛園	4	6月	92	本入所28	老健	5
1月	100	死亡㉔	睦愛園看取り	4	6月	82	本入所29	老健	4
2月	87	死亡㉕	病院	5	6月	83	本入所30	有料	4
2月	98	死亡㉖	睦愛園	5	6月	88	本入所31	病院	5
2月	81	死亡㉗	病院	3	7月	86	本入所32	病院	4
2月	97	死亡㉘	睦愛園	4	7月	86	本入所33	病院	5
2月	92	入院継続⑤	病院	3	7月	88	本入所34	住宅型	3
3月	89	死亡㉙	病院	3	8月	93	本入所35	有料	4
3月	97	死㉚	睦愛園	3	8月	82	本入所36	自宅	4
3月	98	死亡㉛	睦愛園	4	9月	90	本入所37	自宅	4
					9月	75	本入所38	住宅型	4
					9月	94	本入所39	看多機	4
					9月	83	本入所40	老健	5
					9月	87	本入所41	病院	4
					9月	82	本入所42	病院	5

9月	81	本入所43	小多機	3
9月	84	本入所44	自宅	3
9月	96	本入所45	サ高住	3
9月	85	本入所46	自宅	3
10月	83	本入所47	自宅	4
11月	86	本入所48	老健	3
11月	87	本入所49	病院	4
11月	86	本入所50	ショートステイ施設	4
12月	95	本入所51	特養	3
12月	86	本入所52	有料	5
1月	91	本入所53	病院	4
1月	92	本入所54	自宅	3
1月	89	本入所55	有料	4
1月	83	本入所56	老健	4
1月	101	本入所57	病院	5
2月	76	本入所58	老健	5
2月	81	本入所59	ショートステイ施設	3
2月	88	本入所60	ショートステイ施設	3
2月	72	本入所61	看多機	5
3月	90	本入所62	自宅	3
3月	78	本入所63	自宅	3
3月	86	本入所64	自宅	4
3月	70	本入所65	自宅	4
3月	81	本入所66	有料	3
3月	79	本入所67	老健	4
3月	91	本入所68	ショートステイ施設	3
3月	93	本入所69	有料	4
3月	84	本入所70	老健	4
3月	79	本入所71	自宅	3

(6) 利用者年齢別性別状況

①介護老人福祉施設(年度末現在)

年齢	男	女	計	備考
100歳以上	0	2	2	最高齢 104歳
90～99歳	1	24	25	
80～89歳	12	35	47	
70～79歳	6	4	10	
55～69歳	0	0	0	
計	19	65	84	

②(介護予防)短期入所生活介護

年齢	男	女	計	備考
100歳以上	0	0	0	
90～99歳	0	0	0	
80～89歳	0	0	0	
70～79歳	0	0	0	
50～69歳	0	0	0	
計	0	0	0	

(7) 面会・外出 状況

月	面会	備考	外出	外泊
4			1	0
5	258	東A3開所	3	0
6	353		7	0
7	308	東B3開所	7	0
8	323		7	0
9	349		7	0
10	343		12	0
11	364		4	0
12	359	12/31及び1/1は面会中止	7	0
1	317		6	0
2	366		6	0
3	410	東A2開所	12	3

(8) 介護部門

(イ) 移動・入浴状況

①介護老人福祉施設（年度末現在）

ユニット	自立歩杖	歩行器	車椅子			個浴	中間浴	特浴
			自操	ティルト	フルリク			
西A-1	0	0	9	0	1	5	0	5
西B-1	1	1	8	0	0	5	0	5
東A-2	0	3	2	1	0	6	0	2
西A-2	1	0	2	0	2	0	5	5
東B-2								
西B-2	0	0	3	1	0	0	8	2
東A-3	3	1	6	0	0	8	0	2
西A-3	0	0	5	1	2	1	4	3
東B-3	2	1	5	2	0	4	0	6
西B-3	2	1	5	0	0	5	1	2
計	9	7	45	5	5	34	18	32

②(介護予防)短期入所生活介護（年度内実人員）

ユニット	自立歩杖	歩行器	車椅子			個浴	中間浴	特浴
			自操	ティルト	フルリク			
	0	0	0	0	0	0	0	0

(ロ) 食事介護状況

①介護老人福祉施設（年度末現在）

ユニット	自立	一部介助	全介助
西A-1	8	0	1
西B-1	7	2	1
東A-2	3	4	1
西A-2	5	4	1
東B-2			
西B-2	5	4	1
東A-3	9	1	0
西A-3	5	1	2
東B-3	8	1	1
西B-3	6	1	1
計	56	18	9

②(介護予防)短期入所生活介護（年度内実人員）

ユニット	自立	一部介助	全介助
	0	0	0

(ハ)排泄介護状況

①介護老人福祉施設（年度末現在）

ユニット	トイレ使用	ポータブルトイレ・尿器		パッド使用	おむつ使用
		昼夜	夜のみ		
西A-1	6	0	0	10	4
西B-1	6	0	0	8	4
東A-2	7	0	0	9	5
西A-2	5	0	0	10	8
東B-2					
西B-2	8	0	0	10	7
東A-3	8	1	1	10	8
西A-3	3	0	0	8	8
東B-3	5	0	1	10	8
西B-3	6	0	0	8	7
計	54	1	2	83	59

②(介護予防)短期入所生活介護（年度内実人員）

ユニット	トイレ使用	ポータブルトイレ・尿器		パッド使用	おむつ使用
		昼夜	夜のみ		
	0	0	0	0	0

(9)看護部門

要医療者実人員

看護師による主な処置	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①痰の吸引	5	4	2	3	4	2	4	0	3	2	2	0
②在宅酸素療法	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2
③経管栄養	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1
④胃瘻処置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2
⑤座薬・浣腸	8	7	8	6	6	5	8	9	9	11	7	11
⑥バルンカテーテル管理	2	4	4	3	3	3	3	2	2	3	3	4
⑦呼吸器系テープ	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
⑧心臓系テープ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
⑨認知症パッチ	0	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3
⑩創処置・軟膏処置	18	20	24	21	36	34	36	20	22	21	20	19
⑪採血	0	4	8	7	8	10	10	9	9	6	63	3

(10) 栄養部門

(イ) 食形態状況

主食	令和6年度	副食	令和6年度
米飯	33.3 %	常菜	16.7 %
全粥	42.9 %	一口大	32.1 %
ミキサー粥	13.1 %	刻み食	34.5 %
パン	7.1 %	やわらか	13.1 %
パン粥	3.6 %	ムース	1.2 %
補助食品	1.0 %	リカバリー	2.4 %
	%	補助食品	1.0 %

(ロ) 提案、検討事項

利用者・家族・CWからの要望、提案事項の取り組み

要望・提案	取り組み
納豆の味が薄いとの意見が多い。	納豆にかける醤油の量を増やすようにした。
ミキサー食の主菜のメインと付け合わせのが一緒にミキサーにかけられていて見た目が良くない。	メインの具材とソースを別に盛り付け彩り用ソースで見た目を良くした。
とろみ付きの汁にトロミ剤が溶けず固まりになっている時がある。	とろみ付きの汁だけで煮立たせて作るようにした。
食器の蓋を入れるカゴに蓋が入りきらない時がある。	蓋を入れるカゴの他にトレーをのせていただき、入りきらない分はトレーにのせることとした。

(ホ) 非常食在庫状況

非常食＝(利用者100人分)×3日分

食品名	数量	内容量
水	50 C/S	1C/S=2ℓ×6本
白粥	10 C/S	1C/S=200g×30
鶏粥	2 C/S	1C/S=200g×30
鮭粥	1 C/S	1C/S=230g×50
梅粥	1 C/S	1C/S=230g×50
パン粥ミックス	6 P	1P=1kg
LL野菜カレールー	2 C/S	1C/S=200g×30
LL野菜シチュー	2 C/S	1C/S=200g×30
LL鯖味噌煮	70 P	1P=80g
LL牛丼の具	70 P	1P=140g
ぜんざいおはぎ	3 C/S	1C/S=30P

(へ) 令和6年度行事食一覧表

	行事	献立名	季節のおやつ
4月	お花見御膳	桜ご飯、天ぷら、煮物、和え物、ムース	
5月	端午の節句	サフランライス、エビフライ&ハンバーグ、スープ、ヨーグルト	
7月	七夕	七夕そうめん、天ぷら、和え物、果物	七夕ゼリー
	土用の丑の日	うな丼、和え物、すまし汁、果物	
9月	敬老の日	赤飯、天ぷら、煮物、和え物、すまし汁、果物	ねりきり
10月	ハロウィン	南瓜料理	
11月	秋の御膳	炊き込みご飯、秋鮭の塩焼き、炊き合わせ、和え物、果物	
12月	クリスマス	チキンライス、スウェーデン風ミートボール、サラダ、スープ、デザート	
	年越し	年越しそば	
1月	元旦	お赤飯、雑煮風、ブリの揚げ煮、蒲鉾、煮め、黒豆、数の子、栗きんとん、伊達巻、なますいくらのおせ、昆布巻き、すばす	ねりきり
	2日	海鮮2食丼	
	3日	ビーフストロガノフ	
	七草	七草粥	
2月	節分	あなごちらし寿司、煮物、和え物、すまし汁、フルーチェ	
3月	ひな祭り	ちらし寿司、天ぷら、和え物、デザート	
	桜餅レク		